

日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請（認定番号 017 認定期間 2023 年 4 月 18 日～2028 年 4 月 17 日）

（いずれかに ）

■申請年月日 2023 年 1 月 31 日

■コレクションのテーマ

新潟県立植物園アザレアコレクション

■申請団体・申請者名

新潟県立植物園

■申請団体の代表者名（個人での申請の場合は不要）

非公開

■申請団体・申請者の連絡先（住所、電話、メールアドレス）

〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津 186 番地

TEL 0250-24-6465 FAX 0250-24-6410

非公開

■コレクションの所在地（コレクションが分散している場合は主たる所在地）

新潟県新潟市秋葉区金津 186 番地

■現地審査希望時期

2023 年 2 月

希望する理由：開花時期であるため。

■コレクションのテーマ

新潟県立植物園アザレアコレクション

■コレクションの概要

アザレアとは、キシツツジやモチツツジなど日本に自生する野生種ツツジや江戸時代に作出されたツツジ栽培品種が 19 世紀初頭にヨーロッパに渡り、ベルギーを中心に室内観賞用鉢物として品種改良された、大輪で豪華な花容の、開花促成が容易で冬に咲かせることができる常緑性ツツジ（ヤマツツジ節）の品種群である。海外では **Belgian Indian Hybrids Azalea** と呼ばれるが、日本では単にアザレアとして、他のヤマツツジ節の栽培品種群と区別される。

欧米で人気を博したアザレアは日本には明治時代に導入され、本格的な輸入は 1890 年代に始まった。新潟県には 1907 年（明治 40 年）に移入された。当時は栽培方法も分からず一般に販売されるまで至らなかった。しかし、新潟県の花弁生産者がより簡便な増殖方法を導入し、栽培に適した用土を考案し栽培方法を確立したことや、新品種の作出などの先進的な取り組みによって生産量は飛躍的に上昇し、新潟県は今日まで続くアザレアの国内最大の生産地へと発展した。1934 年（昭和 9 年）には日本最大の苗生産量を達成し日本一となったものの、戦争の影響により多くの園芸植物の栽培は困難となり、戦前に県内で作出された国内初のアザレア品種「国華錦」をはじめ数々の品種は全て絶え、現存するものはない。

戦後、1955 年（昭和 30 年）には生産量も回復し、品種改良も新潟県園芸研究センター、県内生産者・育種家により行われ、30 以上の優れた園芸品種が生み出されている。品種改良や海外からの輸入により新しい品種が登場する一方で、古い品種は次々と消えていった。

新潟県立植物園は、1998 年 8 月の第 15 回全国都市緑化フェア開催後、県内初の総合植物園として県内の園芸振興や自生植物の保全、教育普及活動を目的として同年 12 月に正式開園した。当園が所在する新潟市は、1935 年頃より現在まで全国一の生産量を誇ると共に、数多くの新品種を世に送り出したアザレア生産の中心地である。

アザレアが日本に導入された明治時代から現在まで約 300 品種のアザレアが輸入され、一方で国内では約 100 品種が品種改良されたが、多くの品種は失われ、親木のみが残されたという経緯があり、近年市場に流通している品種は 50 程度である。このため、新潟県立植物園では、2000 年より新潟県内をはじめとした全国のアザレア生産者から情報を収集し、親木のみで保存されている品種を含む日本に現存するアザレアのほぼすべての 174 品種を収集し、保存・育成している。時代の移り変わりによって失われやすい栽培品種を栽培、保存することで、アザレアの遺伝子資源の保全および、園芸文化の保存・継承に努めるとともに、新品種の作出等の園芸産業の発展に貢献している。

（参考文献）

Galle, Fred. (1987) AZALEAS Revised and Enlarged Edition. Timber Press.

Kobayashi, N. et al. (2021) Contribution of the *Rhododendron ripense* Makino Chloroplast Genome to the Development of Evergreen Azalea Cultivars. *The Horticulture Journal* 90 (2): 223–231.

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数（保有植物リストおよび写真は、

別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

174 品種 各品種 3 鉢

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

RHS ロードデンドロンレジスターに登録のあるアザレア品種は 800 品種以上であるが、そのうち当園が今回申請するのは 174 品種である。

(参考文献)

Leslie, A.C.. (2004) The International Rhododendron Register and Checklist Second Edition. Royal Horticultural Society.

■コレクションの栽培管理状況（所在地が分散している場合は、ここに全てを列記）

アザレアは、当園バックヤードの栽培温室で 1 品種につき 3 株 3 鉢を保存し、これをもって品種保存、企画展示の装飾、増殖を行っている。各株は花後の刈込、植替え、施肥、定期防除を行い、健全な状態を維持している。栽培途中、生育に衰えがみられる品種、枯死個体が発生した品種については順次、挿し木により株の更新を行い、3 鉢保存の維持に努めている。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

コレクション導入の際は、品種名、導入日、導入先をエクセルで記録している。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

栽培管理時は、プラスチック製の園芸ラベル（T 型ラベル）に品種名を記入し、各鉢に差し込み設置している。

企画展示で展示する際は、品種名と日本語表記、交配親や枝変わりなど品種の作出に関する情報、作出者名を表示している。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

・品種の収集・導入

新潟県花木振興協議会（生産者団体）

・品種の同定

小林伸雄（島根大学生物化学資源部 教授）

岡本章秀（久留米市世界つつじセンター 所長）

■コレクションの長期保存のための方策と体制（増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等）

栽培管理の実作業を行なう作業員により年末年始を含めたローテーション勤務体制を組み、毎日の巡視により目視で確認し、適宜灌水を行っている。花後の刈込、植替え及び施肥、定期防除などの年間の管理作業は、栽培管理スケジュールを作成し、それに沿って適期に行っている。作業の進捗は、担当職員と作業長との毎週の打合せ時に確認している。新人には経験者が刈り込みや植替え等の実技指導を行い、管理水準を保っている。

増殖は挿し木で行っている。枝変わりによって多くの品種が生まれたアザレアは、栽培途中、元の品種とは異なる花を咲かせる枝が発生する。これを放置すると本来の株と置き換わってしまうため、開花時に発生の有無を確認し、見つけた場合は枝分かれている元までたどって切除し、品種を維持している。また、変異枝で置き変わりが進んでしまった株は、本来の形質を持つ枝を挿し木することにより株を更新し、品種を維持している。

県内の営利生産者より品種提供の要望があった際は穂木を提供することで危険分散に努めている。

例年2～3月頃に行うアザレアコレクションを公開する企画展示に合わせ加温による促成栽培を行い、開花を調整している。急激な加温による開花調整は蕾の開花や本来の花色を損なう恐れがあるため、展示開始約2か月前となる11月下旬～12月上旬に12℃程度の加温から始め、12月中旬には15℃、1月には20℃と、段階的に温度を上げていく。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績（研究等を含む）

2001年より企画展示「アザレア展」を開催し、2022年までに21回の開催を数える。例年2～3月に開催し、保有品種のうち150品種程度を展示している。展示の際は、品種名ラベル設置や歴史などの解説も合わせて行っている。

展示の開催にあたっては、ホームページ、チラシ、ポスター、テレビCM等で広報を実施している。これまで開催時には新潟日報社、朝日新聞社、毎日新聞社等の新聞記事や、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、Tenyテレビ新潟、UX新潟テレビ21のニュース番組等で取り上げられた。